

令和 3 年

# 第12回教育委員会会議録 (臨時会)

(開会 令和 3 年10月 6 日)

(閉会 令和 3 年10月 6 日)

岐阜県可児市教育委員会

令和3年10月6日午前9時00分開会

会場：市役所4階教育長室

#### 出席委員

堀部好彦君（教育長）

長井知子君（教育委員）

小栗照代君（教育委員）

伊藤小百合君（教育委員）

#### 欠席委員

丹羽千明君（教育委員）

#### 説明のために出席した者

渡辺勝彦君（事務局長）

今井竜生君（学校教育課長）

千葉智治君（教育研究所主任指導主事）

石原雅行君（教育総務課長）

上北泰久君（学校教育課主任指導主事）

長芝真次君（教育研究所指導主事）

#### 出席委員会事務局職員

木村彰伯君（教育総務課総務係長）

中水麻以君（教育総務課総務係）

#### 日程及び審議結果

1 開 会

2 議 事

①議案第25号 小規模特認校制度の実施について

3 閉 会

## 開会の宣告

- **教育長（堀部好彦君）** おはようございます。

第12回の教育委員会会議を開催させていただきます。

臨時の教育委員会会議の開催ということで、お忙しい中御出席いただきましてありがとうございます。

兼山小学校の児童数減少に伴う対応ということで、コロナの影響で説明会を延期していましたが、10月1日金曜日、また昨日10月5日火曜日に開催することができました。本日、説明会の様子などをお伝えし、検討をお願いしたいと考えていますので、よろしくをお願いいたします。

定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するというところでよろしくをお願いいたします。

## 議事

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、早速議事に入ります。

議案第25号 小規模特認校制度の実施についてを議題とします。

- **教育総務課長（石原雅行君）** 議案書の1ページを御覧ください。

議案第25号 小規模特認校制度の実施について。

下記のとおり可児市立兼山小学校において小規模特認校制度を実施する。令和3年10月6日提出、可児市教育長 堀部好彦。

記1. 小規模特認校、可児市立兼山小学校。

2. 実施開始時期、令和4年4月1日から。

3. 小規模特認校制度による就学の対象児童、可児市立小学校に在籍し、または就学を予定している児童。

資料をお配りさせていただいています。

保護者説明会の資料「児童数減少に伴う兼山小学校の今後について」を御覧ください。

先ほど教育長から話がありましてとおり、10月1日金曜日と昨日5日、説明会を実施しました。10月1日は兼山小学校の体育館で午後6時から説明会を開催し、保護者が16人、あと傍聴としまして学校評議員が4人、市議会議員が4人ありました。そして昨日ですが、兼山保育園の遊戯室で午後4時15分から実施し、保護者8人の出席者がありました。うち1人は小学生の保護者が入っています。あとは就学予定の保護者が7人ということになります。全体としては、58人に案内を出しまして24人の参加ということですから、出席率は41.4%です。

そして、内容ですが、どのような説明をしましてどのような意見があったかということ、少しお時間をいただいて説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

この資料に基づいて説明をさせていただきました。1ページから5ページまでの資料ですが、この1ページが主に中心となります。

まずアンケートについてのお礼と回答結果を説明させていただきました。結果は、75.8%の人が複式学級になっても兼山小学校で学びたいと回答があったことを伝えまし

た。

そして、このアンケートの結果と、教育委員会が策定している学校規模適正化に関する基本方針に基づき、教育委員会で検討したり、美濃加茂市の複式学級の小学校を視察したり、市長と教育委員との会議などで兼山小学校の方向性について検討してきたということを説明させていただきました。

それから、3つ目の兼山小学校の予測の説明、こちらについては、3月のときと比べて、もう既に状況が変わっていると。今年の夏休みに5年生の児童が2人転校して、このままでは来年度5年生と6年生は複式学級になりますよということも話をしました。また令和9年度には、新1年生の入学者が1名になるという予定ですよということも話をさせていただきました。

そして、4の今後の対応策については、既に委員さんにはずうっと話をさせていたるところですが、複式学級になっても兼山小学校で学びたいと考えている人は75.8%ということですので、現状では維持をしたいということをお話しました。また、小規模特認校を4月1日から実施したいとの話をさせていただきました。

3ページ、小規模特認校制度についての話を、これも3月の説明会でもしているんですが、もう一度説明をさせていただきました。近隣市町の状況ということで、伊深小学校と上之郷小学校について、以前は複式学級があった時期もありますが、今ではこの制度を活用して複式学級を解消していますという話もさせていただきました。

4ページ、地域等の関わりとして、中日新聞の7月17日の記事を紹介し、美濃加茂市の三和小学校で、地域住民の方がPRのリーフレットを作り、地域でも三和小学校に来てほしいということをお話していただいているということで、地域でも盛り上げてもらえるとうれしいなという話をしました。

そして5ページ、小規模特認校入学児童を募集（案）。これは委員さんにも見ていただき、いろいろ意見をいただいた中で作ったものですが、この制度が正式に決まりましたら、このチラシを各市内の小学生全員に配るということと、1年生については、これから就学時健診が始まるので、そこで説明をし、PRをしていくということをお話させていただきました。

説明会についてはそのようなことですが、その際に保護者の方から意見をいただき、その意見に基づいて教育委員会会議で議論をし、決定をさせていただくことになりまして説明をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

では、説明会の中で意見があったことを紹介させていただきます。

10月1日兼山小学校で実施した説明会の中では、特別支援学校に行っている子たちは兼山小学校へ来られないのかという質問がありました。これについては、小規模特認校は可見市内の子が対象となるので、市内の子であれば、特別支援学校に行っている子でも兼山小学校がいいということであれば来られますと回答しました。

また、兼山地区の自治会でも協力はしていくということで、自治会との意見交換の場を設けていただきたいというような意見もありました。これは自治会の連合会長のほうからです。それについては、地域の方にもいろいろと御理解と御協力をいただきながら進めていきたいと考えています。一緒に広めていただければと思っていますので、また相談させていただきたいということをお話させていただきました。

昨日の保護者からの質問・意見では、どういった子が来るのか分からないためちょっと不安ですが、近隣で制度を設けている小学校では問題なかったかという質問がありました。これについては、美濃加茂市の学校の校長先生の話では、今のところ問題ないと聞いているということをお話しました。

また、いろいろな子供がいる。みんな可児市の子であり、大切な可児市の子なので、皆さんにも御理解をいただきたいという話をさせていただきました。

あともう一点ですが、なじめない子や事情のある子が入ってくるということは心配ではあるが、学校生活なので、どこにでもいろんな子がいるし、それはそれで子育ての醍醐味として受け入れてと思っている。反対ではなく、むしろ活用してほしいという意見もありました。

あと、自治会の役員の方と1日の説明会が終わってから話をしたところ、この特認校しかないのでぜひ進めてほしい。この説明会でも異議もなかったという話をしてくださいました。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。  
ただいまの説明について、御質問、御意見等よろしくお願いをします。
- **教育委員（小栗照代君）** 雰囲気としては、皆さん賛成というような雰囲気であったりとか、しょうがないというような感じなのか、どんな感じでしょうか。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 10月1日の説明会においては、賛成・反対というはっきりした意見はなかったです。どちらかといえば、静かでした。その中で、最後に自治会長のほうから、みんな異議もないし、それしかない、先ほど説明したような感じでした。
- **教育委員（小栗照代君）** ありがとうございます。
- **教育長（堀部好彦君）** ほか、よろしいでしょうか。
- **教育委員（小栗照代君）** 昨日でしたよね。どんな感じですか。説明して終わりという感じですか。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 昨日の説明会は、意見としては活用したほうがよいということですが、不安な面としてどういう子が来るかという意見がありました。
- **教育委員（小栗照代君）** やっぱその辺は御説明していただいて、御理解いただけたということでしょうか。
- **教育総務課長（石原雅行君）** そう思っています。
- **教育委員（小栗照代君）** ありがとうございます。
- **教育長（堀部好彦君）** ほか、よろしいでしょうか。
- **教育委員（伊藤小百合君）** 参加率が低かったんですが、先ほどの話ですと、今日の臨時会で決まればそのまま進んでいくということだったんですけど、特にアンケートは一応取っているの、差し支えないということですか。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 2回保護者説明会を開催した中で、参加者が少なかったというのは本当に気になるところです。しかし、事前の説明会やアンケートの実施、結果の送付などしっかりと説明等をしてきておりますので、実施していくしかないかと思っています。アンケートもそうですし、前の説明会もやっぱり少なかったです。

○ **教育長（堀部好彦君）** 参加者が、こちらが想定している、願っているよりも少ないという状況については、僕は何で少ないんだろうかということについては校長の意見を聞きたいなと思っています。地域の雰囲気、保護者の雰囲気、ふだんの保護者の対応から推察されること、きっといろいろ感じていらっしゃると思うので、その辺りを今後の特認校のことを進めていく上で大切なことになってくるかもしれないので、確定でこういう意見を持っているよとか、それは分からないんだけど、もしかしたらこんな気持ちを持っておられるんじゃないかなあと、参加されない方はね。なんていうようなことが、こちらとして想定として持つておくことが必要なことというのを思うので、聞いていただけるとありがたいなあとと思います。

○ **教育総務課長（石原雅行君）** 分かりました。

○ **教育委員（長井知子君）** 私もアンケート回収率は低いなあと考えていたのと、1年生から3年生の子の保護者が兼山で学ぶという数字が意外に多いんだなあと。それが特認校を進めていく上でもやり方はきちんとやっておくのが必要ですけど、何かちょっと安心しました。

○ **教育長（堀部好彦君）** そうですね。私を感じ取った2回の説明会の雰囲気は、参加されている方々はやはり兼山小学校のよさを実感しておられて、今の教育活動がずうっと続くように、兼山小学校が続くようにという願いがあって、それが複式学級等になってしまいうんだけれども、ずうっとこの学校が残るという取組であれば小規模特認校いいんじゃないということに落ち着いているんじゃないかなあと考えています。

もろ手を挙げて、最初から小規模特認校をぜひお願いしますというようなことで、御嵩町の上之郷小学校の保護者は、そういう形で教育委員会等に保護者のほうから働きかけたと聞いているんだけど、そういった動きではないんだけど、今回の2回の説明で非常に理解を深めていただいたんじゃないかと思っています。大きな反対とかいうのは全くなかったですから。心配な声は少しあったんだけど。

それは、私、教育総務課長の大変分かりやすい説明が功を奏しているというふうに思っています。具体的に何かというと、まずウィン・ウィンの取組なんだよと。来る子たちも兼山の子たちにとっても、両方メリットがありますよということを大変分かりやすく説明していただいたということ。それから、多くの兼山の保護者が心配しておられた、どんな子が来るのかなあとということについては、きちっとこの特認校の趣旨を理解して、この要綱に沿って学校に通ってくれるということを、きちっとそれが担保できるかどうかということを確認する面接をしますよという説明も加えていただいて、御理解をいただけたのではないかと。加えて、美濃加茂市や御嵩町の既にこの制度を取り入れてやっておられる学校の実態や校長先生の生の声も、調べたことを具体的に伝えていただいた。この辺りが、私は大変分かりやすくそれを説明して下さったので、皆さん御理解をいただいたんじゃないかなあと考えています。

また、私があと感じたことは、昨日の保育園にお集まりの方で、うちの子は少人数じゃないと学校に通えない、少人数だからこそ自分のよさを生かしながら学校生活を送っている子なので、ぜひこれは続けて、兼山小学校継続をお願いしたいという思いの中で小規模特認校をオーケーだよというふうに言ってくさっている。やっぱりそういった

強い願いが、自分の我が子への強い願いがあるんだなあということを改めて感じたし、それから御自身が6年間通った八百津の小規模の小学校が本当によかったと。小学校生活を物すごく肯定的に捉えておられる、小規模校の。なので、うちの子にとってもいいと思うのでという御自身の経験というようなことも、ああ、強いんだなあという保護者の気持ちを感じました。

あと、地域でも盛り上げてくださいということを新聞の記事も踏まえて呼びかけていただいたことについても、私は大変よかったですと思います。兼山小学校の参加者の中に地域の方がいらっしやいましたよね。

○ **教育総務課長（石原雅行君）** 評議員です。

○ **教育長（堀部好彦君）** 評議員の方がね。あの方は、とても前向きに捉えてくださったんじゃないかと思うんだけど。

私の意見を踏まえて、また感じたことを教えていただけるとありがたいんですけども、私からちょっと2つ、今後のことも踏まえて気をつけないといけないと思っていることなんだけど、まず1つは特別支援学校。その評議員の方が質問されたんだと思いますが、特別支援学校に通っている児童も来られますかということについて、来られますよということで回答はしたんだけど、これは千葉主任指導主事にもちょっと御意見をお伺いしたいんだけど、特別支援学校の入学に際しては、特別支援学校の関係の市町村、学校が協議というか、就学の指導の中で、この子がどこで学ぶのが一番いいのかということ踏まえて、市町村立の学校の特別支援学級よりも、県立の特別支援学校のほうがよりこの子のためにいいだろうという判断で通っているんだね。その学校に特別支援学級があるんだけど、通常の市町村立の学校の宣伝をするということは、何か違和感を僕は感じるんだけど、どうですか。

○ **教育研究所主任指導主事（千葉智治君）** 私も、今教育長がおっしゃったことと同じことをさっき説明の中で感じたので、制度上、その子が学ぶのに、兼山小学校の特別支援学級が適していれば通うことはできますが、そもそも特別支援学校に行くということは、市町村立の学校の特別支援学級ではその子の学びを保障するのに不安があるというか、支援学校のほうがその子に合っているという判断の下に決まった子たちなので、何かその子の成長とかがあって、または保護者の強い希望やうまくフォローができるとか、いろんな条件がそろって可児市内の学校へ戻ってきますよというのは、これは可能なんです。

○ **教育長（堀部好彦君）** 積極的に学校に行ってパンフレットを配ってというものではないような気がします。

○ **教育研究所主任指導主事（千葉智治君）** はい。それは私もそう思います。

○ **教育長（堀部好彦君）** 積極的に宣伝ということではなくて、今のようなパターンで、市町村立の学校に戻るといような動きがもしあるのであれば、例えばそういう子にこういうのを紹介してくださいというぐらいでいいんじゃないかということだね。

○ **教育研究所主任指導主事（千葉智治君）** そういうことです。

○ **教育長（堀部好彦君）** そういう紹介の仕方にしてください。これが1点目です。

2点目は、これも今後ということなんです、保護者の方が心配をしていたことについては、先ほどの課長の説明のとおり、面接等を行いながら御理解いただけるところで

やっていますと回答をさせていただいたんだけど、私は大変失礼ながら、そういった心配、同じように心配されている方々の中の人権感覚、そんな見方があるとしたら、それは私たちは気をつけないといけない、正さないといけないということは思います。何人か来年度入ってくださる方々に対して、もしかしたらそういった偏見で兼山の方々が見ていらっしゃるとすれば、大変失礼な言い方なただけど、そういった見方は正していくような入学・転入の際の配慮が要るのではないかなということは思います。表立って、こうこうこうでと言う必要はないかもしれないんだけど、学級に入るときの紹介の仕方とか、当初の最初の1週間のセレモニー的というか、お迎えの雰囲気づくりとか、そういったところで気をつけないかなのかなというようなことは思いました。その辺り、校長は十分分かっていることだろうと思うんだけど、やっぱり私としては、それは気にはなりました。

どうでしょうか。雰囲気のある程度、またさらに伝えたつもりなんですけれど、もし感想やら御意見ありましたらお願いをします。

- **教育委員（長井知子君）** 今教育長が言われたように、まだまだ小学生はやっぱり真っ白なので、本当に家庭環境が全て、親の考えなり、そういうのが全て子供に反映されて、気をつけている親はそういうことはもしかして言わないかもしれないけど、何げにぼろっと言っちゃったときに、子供は素直だからそのまま浸透しちゃう。子供は全然悪くないんだけど。
- **教育長（堀部好彦君）** 家での会話ですね。
- **教育委員（長井知子君）** そう。やっぱり環境ってすごく大事だから、言われたように、本当にそういうところを払拭していく。それは本当は家庭の仕事なんですけど、本当にそういうことを考えたときに、もしかしていじめとか、ないと思いますけど、発展する可能性もなきにしもあらずだから、そういうことに配慮をこちら側がやっぱり気をつけていかなきゃいけないなと思いました。
- **教育長（堀部好彦君）** 本当に家でどんな会話がなされているかということは、親さんはそんなに意識していなくて、本当に今、長井委員が言われたように、ぼろっと言われたことが結構大きいというのは。
- **教育委員（長井知子君）** あると思います。
- **教育長（堀部好彦君）** あるあるだね、これはね。本当にそう思います。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 丹羽委員からですが、先ほど電話で、共和中学校について、卒業後はどうですかというような意見がありました。これは前に教育委員会会議で説明させていただきましたとおりですが、できれば卒業後、可児市の学校でも共和中学校でも、本人が選択できるようにしたいと考えております。これも事前に御嵩町教育委員会に話はしてありますが、そのときは前向きな意見をいただいておりますけど、正式に決まりましたら、また話をしていきたいと考えております。
- **教育長（堀部好彦君）** それって、どういう段取りで進めていきますか。少し聞いているんだけど、今後どういう段取りですか。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 御嵩町にはもう既に話をしていますので、御嵩町の共和中学校の教育委員会会議で恐らく話が出てくると思います。それは、教育長と小栗さんが共和中学校の教育委員会会議に出させていただいて、話が出てきたときに、ぜひ



お願いしますと。

- **教育長（堀部好彦君）** それは今年度中ということだね。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 今年度中になると思います。ただ、時期的に今年度の3月です。ただ、特認校は可児市が決定しても4月からですので、3月の共和中学校組合の教育委員会会議で話し合いをしていただければと思います。
- **教育長（堀部好彦君）** 今年度希望してくださる保護者には、そういった卒業後どうなるんだろうということで質問されるパターンもあるかもしれないよね。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 決定はしていませんがこのように考えているという話をしていきたいと考えています。
- **教育長（堀部好彦君）** 分かりました。
- **事務局長（渡辺勝彦君）** 兼山小学校の説明会の際にはその話題が出ませんが、昨日の兼山保育園での説明の際には、石原課長から今の件も説明の中に加えてもらっていますので、聞いていただいたと思います。

ただ、可児市・御嵩町の組合のほうでも、特に今回の制度を受けて規則を改正したりという必要はないそうなので、取扱いの中で対応していくことになるそうなので。

- **教育長（堀部好彦君）** なるほど。そうすると、割合ハードルがそんなに高いわけではないということだね。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 共和中学校の教育委員会会議で話はあると思いますので、またお願いしたいと思っております。  
あと、丹羽委員から、今募集要項にも書いていないんですが、定員についてどうかという話がありました。小規模特認校の特色を生かすということですので、人数がどんどん多くなるとは、それは小規模校というわけにならないので、美濃加茂市の例でいきますと、現在17人の定員としています。今、学級編制の標準が35人になっていますので、その約半分程度がふさわしいと美濃加茂市は進めているようです。可児市においても、今のところそのぐらいをと考えておりますが、委員さんからの御意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

- **教育長（堀部好彦君）** 今朝、スマイリングルームの成瀬室長さんとお話ししたときに、昨年度からなんですが、室長さんの計らい、お考えで、小規模であれば通えるよという不登校傾向のある子たちに、そういった兼山小学校の魅力の紹介をしているそうだね。

ということで、私はこの間からずうっといつも言っている笑顔のものとことなんですけれども、兼山小学校、小規模特認校の取組で、不登校傾向のある子の笑顔のもとをつくる学校であるというような位置づけもできるかなと。不登校の未然防止にもつながる大変すばらしい取組ではないかなというふうには思っています。

では、ほかに御質問、御意見ありましたら。

よろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

ありがとうございました。

では、御意見等ないようですので、この件については原案のとおり承認することに御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この件については原案のとおり承認いたします。

今後のスケジュール等について説明をお願いします。

- **教育総務課長（石原雅行君）** スケジュール等についてですが、本日決定をしていただきました。本日中に各校長先生へ決定したことを報告します。あわせて、募集チラシの配布依頼や保護者から担任等に相談があった場合に、快く相談に応じていただくようにまた依頼します。また、担任の先生などにも周知していただくようお願いしたいと思います。

そのほか、可児の記者クラブのほうへ、決定したことや募集のPRについて本日投げ込みをしたいと考えています。あした10月7日は、早速今渡北小学校で就学時健診があります。そこに募集のチラシの説明をして、PRしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。また、ほかの学校についても、10月21日まで各小学校で就学時健診がありますので、そこで説明をしてPRしていきます。

11月1日から12月24日までが申込みの期間になります。興味のある方や相談者には、説明や学校見学の調整をし、対応していきます。12月24日で一旦区切りとして期間を設けていますが、応募の状況により、期間を過ぎても相談者に対し説明や学校見学の調整をし、対応していきます。

11月1日号の可児市の広報紙にも掲載し、募集をお願いしていく予定です。正式に申込みがありましたら、先ほどのとおり、面談の日程を決め、教育委員会と校長等で面談をします。そして、面談では就学条件を守れることの確認や子供が希望していることなどの確認を行いまして、最終的に決定をさせていただき、令和4年1月下旬には保護者宛てに転入学の決定の結果を通知する予定です。

いろいろPRしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ただいまの事務局の説明につきまして、御質問、御意見等ありましたら、よろしくお願いいたします。

説明の場は、どの学校も全て就学時健診の場であるという。

- **教育総務課長（石原雅行君）** 1年生については就学時健診ということで、あと在校生については募集のチラシを全児童に配付します。
- **教育長（堀部好彦君）** 配付のみと。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 配付のみになります。
- **教育長（堀部好彦君）** 新1年生については、配付プラス口頭による説明ですか。
- **教育総務課長（石原雅行君）** そうです。
- **教育長（堀部好彦君）** 資料の説明ということですね。大体今ずうっと昨日説明されたような中身を説明されると。
- **教育総務課長（石原雅行君）** そこまで詳細ではないですが。
- **教育長（堀部好彦君）** 簡単にとということですね。
- **教育総務課長（石原雅行君）** 募集のPRについての説明になります。
- **教育長（堀部好彦君）** では、このスケジュール、内容でよろしかったでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

ありがとうございました。

では、特になさうですので、このように進めていただくようお願いをいたします。

#### 閉会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） これにて教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。

閉会 午前9時38分